

# 令和3年度 共通教育について語り合う会 「フクトーク」報告

大学教育センター 津田 将行 日暮 美紀

●主催 大学教育センター（全学共通教育部門）

●趣 旨

学生が国際社会の中で社会人としてのスキルを身に付け、教養を深めて高い見識を持ち、豊かな人間性を培うために共通教育の役割は大きい。そのため、共通教育の充実が望まれる。「フクトーク」は、学修の主体者である学生が参加して魅力的な授業や学修支援の在り方等を一緒に考え企画する企画提案型の意見交換会である。

共通教育での学び方、学びたい科目やテーマ、学修支援のポイントをはじめ学修成果が期待できる様々な工夫やアイデアなどに関する語り合いを通じて、魅力的な授業内容・方法や新しい学びの創出につなげ、共通教育の一層の充実を目指している。

●日 時： 令和3年12月8日（水） 16時30分～17時50分

●場 所： 大学会館3階 ICT教室「CLAFT」

●テ ー マ： 思索する旅×創造旅行～教養教育科目D群(思索と創造)を考える

●参加学生

学部別	学科別
経済学部 11名	国際経済 4名、税務会計 7名
人間文化学部 4名	人間文化 1名、心理 3名
工学部 8名	スマート 5名、建築 2名、情報 1名、機械 1名
生命工学部 2名	海洋 2名
薬学部 2名	薬 2名

計 27名 計 6グループ

●プログラム

16:30 全体説明

16:35 自己紹介& SGD（スモール・グループ・ディスカッション）

17:20 グループ発表

17:35 講評・閉会の挨拶

17:40 集合記念撮影

17:50 解散

●スタッフ

大塚豊、鶴田泰人、今井航、劉国彬、小野太幹、Lowes Jason、津田将行、記谷康之、向井勝也、日暮美紀

## ●事前説明会

昨年度までは、当日に「フクトーク」のテーマを発表し、直後からスモール・グループ・ディスカッション(以後、SGD とする)を行っていた。しかしこの手法ではSGDの時間を十分にとることができず、また学生の考えをよく深めること、対話の時間を取ることができないといった問題が指摘されていた。そこで、今回は事前にSGDの方法、進め方、そして「フクトーク」のテーマの発表を行うとともに、テーマについて考えるヒントとなる資料を提供した。以下は、事前説明会の開催時間と開催場所である。

- ・日時： 令和3年11月24日(水) 12:30~12:50
- ・場所： 7号館2階 プロジェクトラウンジ

## ●要 旨

共通教育について学生同士が語り合い、学生自らが新しい授業や学修支援の在り方等を企画提案することを目的とした「フクトーク」も今年で10回となる。今回のテーマは、「思索する旅×創造旅行 教養教育科目D群(思索と創造)を考える」に決定した。「フクトーク」参加学生の募集は、学内公募と学部学科からの選出の2つの方法を採用した。

今回は、先述のように事前に説明会を実施し「フクトーク」の趣旨、SGDの意味、及び今回のテーマについて説明を行った。

当日は、6グループに分かれSGDを行った。会場は、大学会館ICT教室「CLAFT」を使用した。

進行については、総合司会による全体説明として、今回のテーマ、ルール、役割を再確認した。SGDでは、グループ毎に、自己紹介を行うとともに、司会進行係、記録係、意見をまとめる発表者を決めた。

まずは個々がD群に対する現状把握、ギャップの整理分析を行うため、D群の受講の有無とその感想や理由について意見を出し合った。受講した場合には、その受講科目名とその授業に関する良かった点や要望・改善点等の意見を述べ、また受講していない場合には、受講していない理由について意見を述べた。

次に、プロダクトのキーワードとして「思索と創造」を基にD群に対する新しい科目について、①科目名、②科目に対するキーワードや科目の概要、③その新科目を提案する理由の3点を提示するように指示した。

また、記録係が各グループに割り当てられたホワイトボードに議論を記録し、それをもとにプロダクトを作成した。

SGDおよびプロダクトのまとめ作業は合わせて45分という限られた時間であったが、各グループとも活発に議論がなされ、プロダクトのタイトル、提案内容、セールスポイントがホワイトボードにまとめられた。

グループ発表では、各グループの発表者がプロダクトの内容について説明を行った。6グループのプロダクトの各タイトルを以下に示す。

- (ア) アドラー心理学
- (イ) 現代社会の心理学
- (ウ) 海外旅行に関する科目
- (エ) サルでもわかる心の科目
- (オ) 起業論
- (カ) 経験や学んだことをアウトプットする科目

次に、各グループから出てきた現状、ギャップの整理、および新規提案科目を表1にまとめると以下のようなになる。

表1 教養教育科目D群(思索と創造)に関する6グループの意見

グループ	現状	ギャップの整理	新規提案科目
(ア)	興味がない 難しそう	内容を見やすく、明確にする 名前を変える	アドラー心理学
(イ)	受講した場合： 「ジェンダーの心理学」 他の講義で学べないことが 学べる 受講していない場合： 興味がない 言葉が難しい 時間が合わない	漫画などの身近な物から興味 を出す 受講者数を増やす 授業内容を分かりやすくする	現代社会の心理学 内容 漫画の1シーンから心情 を想像 コロナ禍の行動パターン AIに対する向き合い方
(ウ)	人数制限がある 科目名が難しそう	専門教員を増やす 役に立つかどうか知りたい 興味を引く名前にする	海外旅行に関する科目
(エ)	授業内容に興味がある	タイトルがわかりにくい グループワークがしたい 噛み砕いて説明してほしい	サルでもわかる心の科目
(オ)	接点が少ない 身近に感じられない		起業論
(カ)	受講した場合： 「心と健康」 ストレス対処法など、後 から応用がききそうな内 容だった 「ジェンダーの心理学」 映画やデートDVなどか ら性差を学んだ 「哲学」「倫理学」 難しそうだとらなかった	受講できる人数を増やしてほ しい 先入観 心と健康、ジェンダーの心理 学が分かれて取りづらい 名前から想像しにくい	経験や学んだことをアウト プットする科目

※ジェンダーの心理学：人数制限の抽選科目

教養教育科目D群（思索と創造）は、「心と思考の仕組みを理解し、人として生きる意味と人間性を培う意義を深く捉えて豊かな品性と不屈の精神を養い、道理を実践する力を伸ばす。」を目的として実施されている。

今回は教養教育科目D群の授業内容をより充実させられるような提案をしてもらった。学生は今後、生きていくために役に立つと考えられる学びが必要だと考えているようである。他者の心や思い、そして何よりも自分の心や思いの在り方について基本の基本から、丁寧に分かりやすく学びたいと考えている。そして今後、社会へ出た後の自らの活躍を見通して、今の学びの段階で、知識を一方だけ説明するだけでなく、アウトプットを伴った学びによりスキルとして身に付けることを志向している。また、中には将来、海外への挑戦、あるいは起業という挑戦をしたいという希望も持っている。

次頁では、当日の写真を掲載している。



全体説明



スモール・グループ・ディスカッション 1



スモール・グループ・ディスカッション 2



発表 1



発表 2



講評

さいごに、アンケート調査の結果を以下に示す。

まず、「フクトーク」に参加するに当たってのきっかけの質問として、問①「どのようにして知ったか？」に関して、「教員からの参加要請があったので知った」の回答が67%と一番多く、また問②「参加の経緯」に関して、「内容に興味を持てたから」の回答が40%と一番多いことから、教員からの参加要請とともに、内容に興味を持てることにより参加を決めた学生が多かった。

次に「フクトーク」に参加に対する質問として、問③「話し合いは有意義だったか？」に対して、70%が「非常に有意義であった」、22%が「比較的有意義であった」と9割の参加学生が「有意義であった」と感じていることがわかる。

問④「自分の意見が十分に伝えましたか？」に対して、52%が「十分に伝えた」、35%が「ほぼ伝えた」とこれも約9割の参加学生が「意見を出せた」と思っているようである。問⑤「ディスカッションの時間」に対しては、57%が「もう少し長い方が良かった」と回答、問⑥「1グループ当たりの人数」に対しては、96%が「適切であった」と回答していた。よって、グループ構成人数は5人の場合、グループ内で個々の学生はその場で意見を出せたと感じているが、より深い対話をするためには、もう少し時間が長い方が良かったと感じているということがわかる。

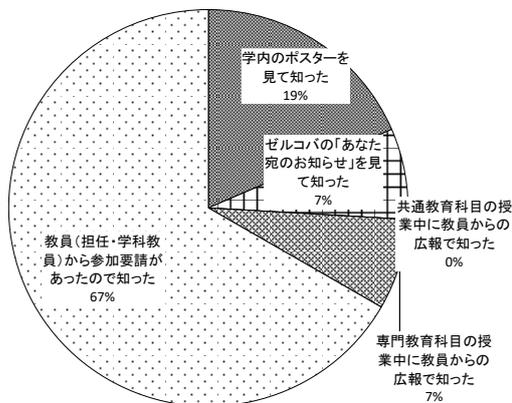
次に今後の実現性に対する問いとして、問⑦「提案されたプロダクトの実現の是非」では、56%が「実現してほしい」と回答していた。また問⑧「学生の意見を取り入れたい新しい授業の提案」では、78%が「学生の知的要求を満たすためには、必要である」と回答していた。さらに問⑨「次回の「フクトーク」への参加」では、「内容によっては参加したい」が44%と一番多く、次に「是非参加したい」が26%と、授業内容に対して学生は、改善していきたいと考えていると言えよう。

今回も関係の多数の方々にご協力いただき、遂行できたことに熱く御礼を申し上げる。あわせて、あくまでも強制的にではなく学生の自主的な参加となるように、参加学生募集のあり方に注意し、今後も本学教員の意見を頂きながら行って参る所存である。

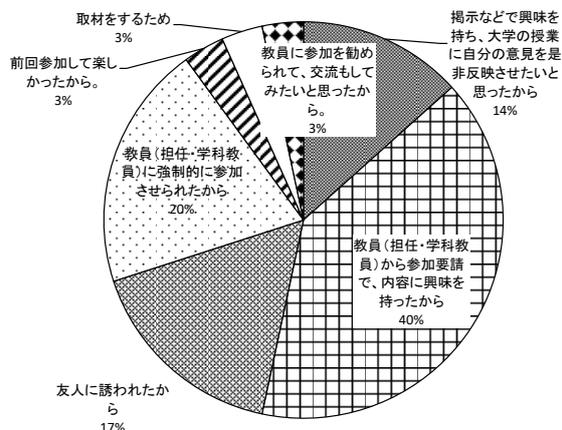
### 「フクトーク」参加者 アンケート集計結果

「フクトーク」参加者数 27名、 アンケート記入者数 23名

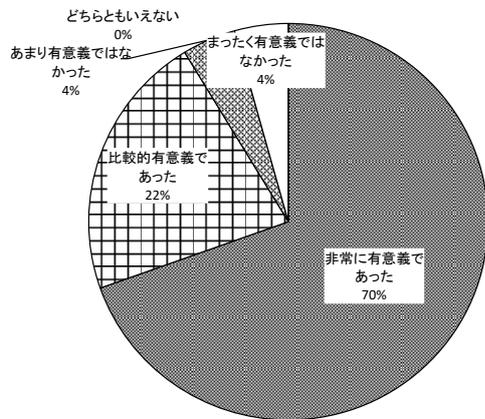
① 「フクトーク」をどのようにして知りましたか。(複数回答可)



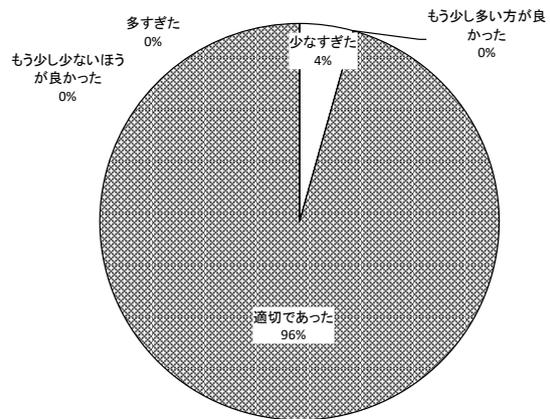
② 「フクトーク」への参加の経緯を教えてください。(複数回答可)



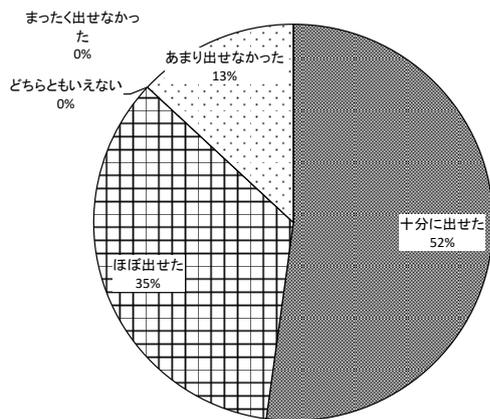
③ あなたにとって、「フクトーク」での話し合いは有意義でしたか。



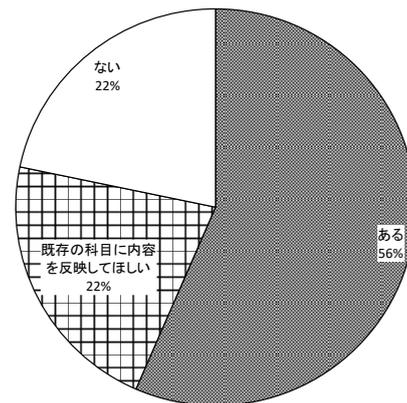
⑥ グループディスカッションの1グループの人数は適切でしたか。



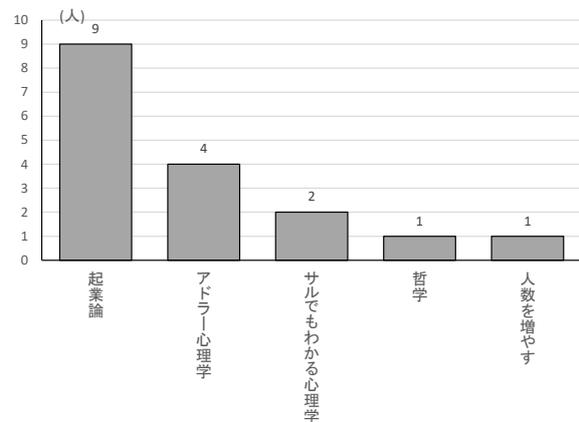
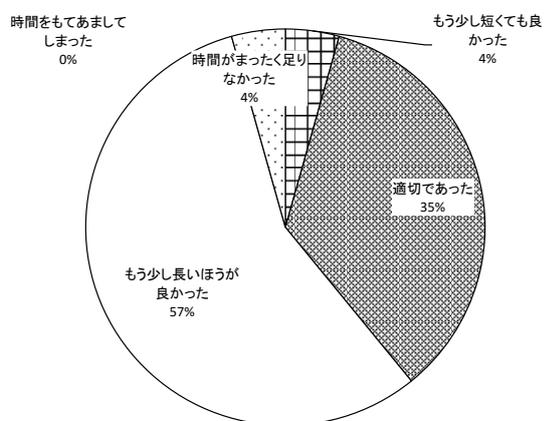
④ グループディスカッションでは、自分の意見を十分に出せましたか。



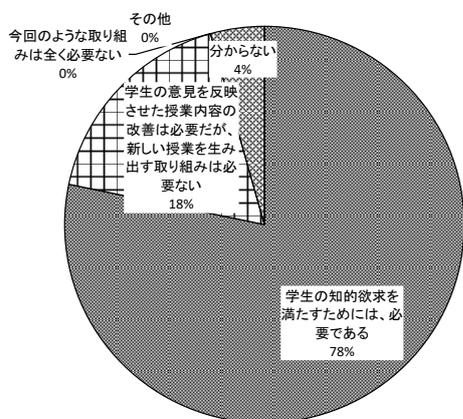
⑦ 今回の「フクトーク」で提案されたプロダクトの中では是非実現してほしいものはありますか。



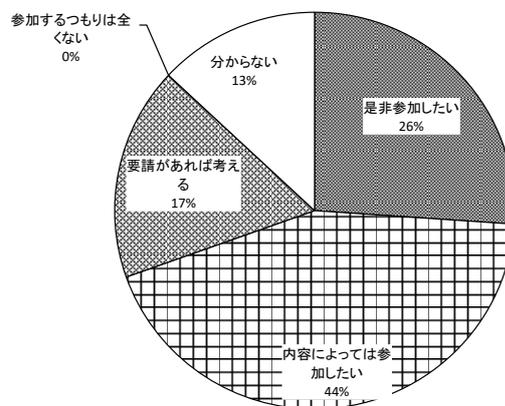
⑤ ディスカッションの時間は適切であったと思いますか。



⑧ 学生の意見を取り入れた新しい授業を生み出していく取り組みは、今後も必要と思いますか。



⑨ 次回の「フクトーク」に参加したいと思いますか。



⑩ 「フクトーク」に参加して、思ったこと、考えたこと、改善した方がよいことなど自由に記載してください。

- 意見が出しやすくて非常に楽しかった。
- とても楽しかったです。ありがとうございました。
- グループディスカッションが楽しかったです
- 非常に楽しかったです。
- 普段考えることのない内容だったので楽しかったです。
- 終始和やかなムードで行われ、意見を否定しないという点でとても発言しやすく、楽しく意見交流ができました。
- 色々な人の意見や考えを聞くことができたので良い経験になった。
- もう少し話し合いの時間があればよかったです。もしくは、話し合いに使う資料を事前に配っておいてから、自分なりに書き込んだ状態で話し合いができたらいいなと思いました。
- 個人で考えるのではなく、グループで考え、話し合うことで違った視点からの意見もでてきて、より柔軟に考えることが出来た。
- 担任の先生からの要望での参加だったので、正直嫌な気持ちが大きかったのですが、参加してみて、他学部の方と楽しく話せたり考えたりできたので、このコロナ禍でオンライン授業が多い中で良い経験ができたと思いました。何よりも、雰囲気がとても和やかだったことが良かったです。ありがとうございました。
- 担任の先生に出てみないかと言われて参加しましたが、少し面倒だと思いながら参加した自分を恥じたいくらい、とても有意義で刺激を受けた時間でした。ディスカッションの時間は短いと思っていましたが、逆に少ない時間をしっかりいかそうと、無駄のないディスカッションができたので、丁度良かったように感じました。
- 色々な見方と意見を知り、とても良い勉強になりました。次回も参加してみたいです。
- 強制参加者の熱意と自分で主体的に参加した参加者の熱意に差を感じた。

なお、今回の開催状況は、本学のホームページ、学長室ブログにも掲載されている。以下のとおりである。【URL : <https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/60600/>】



2021.12.21

### 【大学教育センター】学生発案 あったらいいな！こんな授業「フクトーク2021」開催！

福山大学では、「学生発案 あったらいいな！こんな授業」をテーマに、共通教育科目の在り方について語り合う会「フクトーク」を開催しています。先日開催された、その「フクトーク2021」の報告が田澤健（大学教育センター）から頂きましたので紹介します（担当T投稿）。

この「フクトーク」では、共通教育での学び方の工夫、学びたい科目やテーマ、学修支援のポイントをはじめ学修成果が期待できる様々な工夫やアイデアなどを議論し、魅力的な授業方法や新しい学びの創出につなげ、共通教育の一層の充実を目指しています。2012年度から始まり、今回で進算10回目となります。

本学の教育科目はA群～F群と構成されており、各群にはそれぞれ学修テーマがあります。A群は「自然と科学」、B群は「社会構造と生活」、C群は「歴史と文化」、D群は「思考と創造」、E群は「芸術と健康スポーツ」、そしてF群は「地域学」となっています。

今回の「フクトーク」は、教養教育科目D群「思考と創造」について考えと見ようというものです。D群の科目数は他の群と比べて少ないこともあり、新規授業科目についての要望も聞かれるかも知れないとの考えから、今回のテーマとして取り上げました。12月8日（水）16:30から、大会館3階CLAF T教室で開催しました。



テーマに沿って、D群の教育の現状について、また新規授業科目の提案などについて、学生たちは活発に討議や検討を繰り返して、充実した時間となりました。



熱心な議論が進みます。

参加した学生の中には、新聞取材を兼ねていた人もいます。経済学部国際経済学部の前出杉乃乃さんです。その前出さんの感想を最後に紹介します。

私は、先々の紹介で、「中国新聞」のキャンパスリポーターの取材も兼ねて、初めてフクトークに参加させていただきました。コロナ禍で学校に通う日数が減り、学内で関わる人が減っている中、テーマに關して一人で考えるのではなく、他学部・他学科の方とグループとなり、意見や考えを聞き、話し合うことで多様な視点に気づくことができ、楽しく、また貴重な経験となりました。今回、取材した内容は、「中国新聞デジタル」に1月下旬頃に掲載される予定です。良かったら見てください。

学長から一言：「フクトーク」での学生諸君からの提案や要望に応じて、先年の「韓国語」の開講をはじめとして、実際に新しい科目が設けられることも珍しくありません。この催しは学生から大学への意見の場であると同時に、他の学部・学科の人たちと出会う、知り合うチャンスでもあります。たまたま覗かせてもらいましたが、今年は例年になく参加者が多く、活発な議論が展開されていたようでした。さて、大学の教養教育の改善につながる貴重な意見が今年はどうも出たのでしょうか。大学教育センターからの正式報告が楽しみです。